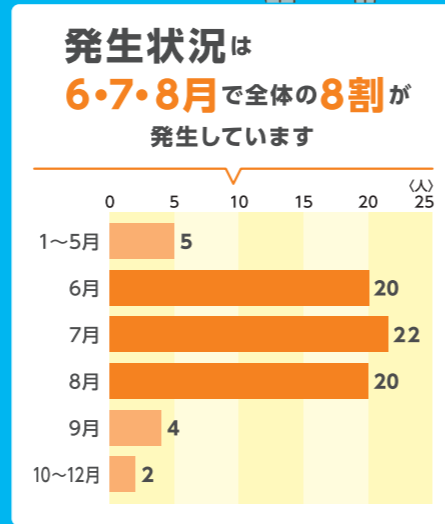
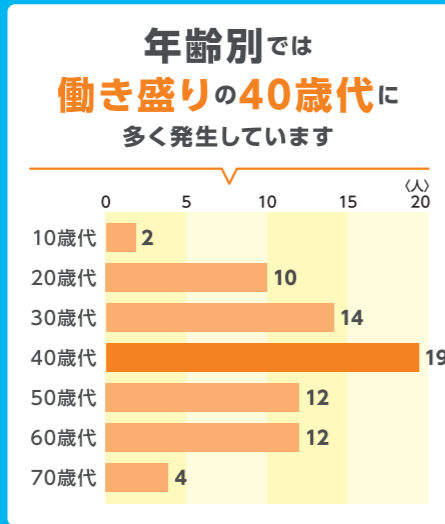
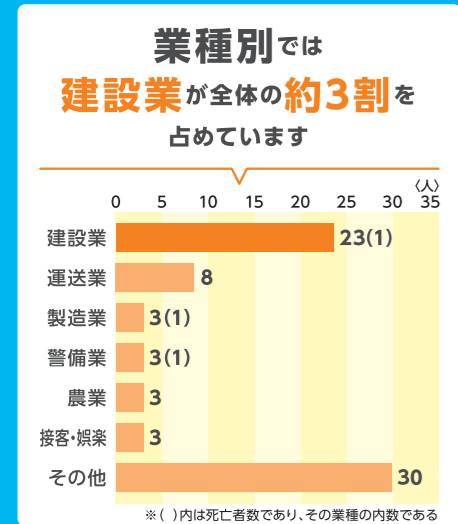


# 県内における過去10年間（平成23年～令和2年）の熱中症による 休業4日以上労働災害（73人）から見える特徴



# STOP! 熱中症

あんまり暑いと仕事にならんさー!

## 沖縄労働局管内における熱中症災害発生状況

業種	災害発生日	年齢	性別	被災程度	災害発生状況
建設業	令和3年5月中旬	10代	男	死亡	現場で型枠工事の補助作業として片付け作業をしていたところ、気分が悪そうにしていたので休憩をさせていたが、急に倒れた。
	平成30年5月下旬	50代	男	5日	ホテル改修工事現場の内装仕上げ作業中に具合が悪くなったことから休憩を取り再び作業を再開したが足の痙攣を発生した。その後、病院で受診したところ、熱中症と診断された。
	平成29年10月上旬	40代	男	1ヶ月	早朝から橋脚足場上でセメントモルタルの練り混ぜ打設を終えて、昼過ぎに足場から降りたところ、ふらつきや意識混濁が見られたため病院へ搬送された。
	平成29年6月下旬	10代	男	4日	マンション新築工事現場の屋外で構築物を囲う枠を作っていたところ、急に気分が悪くなる症状が出ていたが作業を続けていた。帰宅しても体調が良くならないことから病院で受診したところ、熱中症と診断された。
運送業	令和3年5月中旬	20代	男	7日	14時頃から30度を超える気温の構内で、汗をかきながらの荷積み中、手足のしびれなどの体の異変を感じ、救急搬送された。
	令和2年6月中旬	70代	男	9日	倉庫となりの屋外で、引越越し貨物を入れる木箱作成の作業中、フラフラした状態で歩いていたことから帰宅を指示。翌日まで自宅療養するも体調が回復しなかったため病院を受診した。
農業	平成29年8月上旬	20代	男	15日	朝から農場内での菊栽培作業を終え、昼の休憩後に気分が悪いと木陰で休んでいたが、気分が優れないことから帰宅したが意識不明で倒れ病院に搬送された。
クリーニング業	令和2年8月中旬	70代	男	5日	工場内でアイロンによる仕上げ作業中に倦怠感を感じ気分が悪くなった。
飲食店	令和元年8月下旬	40代	女	10日	調理等作業中に頭痛と吐き気を発症。退社後に病院で受診したところ熱中症と診断された。（当日はエアコンが壊れており、正常に作動していなかった。）
機械修理業	令和3年8月初旬	40代	男	7日	燃料タンクや作業油タンクのフィルター交換等の通常の整備作業を行っていたが、夕方頃より倦怠感を覚えたことから病院を受診した。
清掃業	令和3年8月下旬	50代	男	4日	公園の草刈り作業中、15時頃に気分が悪くなり、腹部が痙攣し始めたため病院を受診した。
ゴルフ場	令和3年6月中旬	60代	女	7日	14時頃、ティーグラウンド上で吐き気とめまいがして倒れこみ、救急車で搬送された。
警備業	平成29年7月下旬	40代	男	死亡	建設現場で、警備中に足元がふらつき座り込んでいた被災者に声をかけるが反応しないため、病院に搬送するが4日後に熱射病で死亡した。

※本災害発生状況は、労働者死傷病報告による集計結果より作成したものです。

**NG!** 高温環境

**NG!** 多湿環境

**NG!** 休憩時間なし

**NG!** ひとり作業

**NG!** 体調不良

**OK!** スポットクーラー

**OK!** 空調服

**OK!** 適度な休憩

**OK!** クーラー付き休憩所

**OK!** 氷のう

**OK!** 熱中症教育

**OK!** 水筒(マイボトル)

## クールワークキャンペーン

5月1日～9月30日

わが社の熱中症対策

<https://www.okinawas.johas.go.jp/>

沖縄産業保健総合支援センターご利用時間

平日 8:30～17:15 ※窓口相談は予約制です

さんぽセンターおきなわ 検索

<https://www.okinawas.johas.go.jp/>

独立行政法人 労働者健康安全機構

沖縄産業保健総合支援センター TEL.098-859-6175

〒901-0152 沖縄県那覇市字小椋 1831-1 沖縄産業支援センター2F FAX.098-859-6176

業務内容 ▶ ①専門的研修 ②専門的相談 ③メンタルヘルス対策支援  
④治療と仕事の両立支援 ⑤小規模事業場向けサービス



独立行政法人 労働者健康安全機構

沖縄産業保健総合支援センター

TEL.098-859-6175 FAX.098-859-6176

さんぽセンターおきなわ 検索



# ? 熱中症ってなんだろう

室温や気温が高い中での作業や運動により、体温の調節機能が働かなくなり、体内の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れ、発症する障害の総称です。

	症状	重症度	治療	臨床症状からの分類
<b>I度</b> (応急処置と見守り)	めまい、立ちくらみ、生あくび、大量の発汗、筋肉痛、筋肉の硬直(こむら返り)、意識障害を認めない		通常は現場で対応可能▶冷所での安静、体表冷却、経口的に水分とNaの補給	熱痙攣 熱失神
<b>II度</b> (医療機関へ)	頭痛、嘔吐、倦怠感、虚脱感、集中力や判断力の低下		医療機関での診察が必要▶体温管理、安静、十分な水分とNaの補給(経口摂取が困難なときには点滴にて)	熱疲労
<b>III度</b> (入院加療)	次の3つのうちいずれかを含む ●中枢神経症状(意識障害、小脳症状、痙攣発作) ●肝・腎機能障害(入院経過観察、入院加療が必要な程度の肝または腎障害) ●血液凝固異常[急性期DIC*診断基準(日本救急医学会)にてDICと診断]→III度のなかでも重症型		入院加療(場合により集中治療)が必要▶体温管理(体表冷却に加え体内冷却、血管内冷却などを追加)呼吸、循環管理、DIC治療	熱射病

\*DIC(DICとは、本来出血箇所のみで生じるべき血液凝固反応が、全身の血管内で無秩序に起こる症候群である。)

出典:日本救急医学会熱中症分類2015

## 応急処置

暑い現場から涼しい日陰か、冷房が効いている部屋などに移す

衣類を緩めて(場合によっては脱がせて)、体からの熱の放射を助ける

氷のうや濡れタオルなどで、首、脇の下、足の付け根を冷やす

応答が明瞭で意識がはっきりしているなら水や塩分を取らせる

あらかじめ緊急連絡網を作成し、関係者に知らせておいてください。また、作業現場の近くの病院や診療所の場所を確認しておく。

**異常時の措置**  
呼びかけに対する返事がおかしいなど意識障害がある場合、自力で水分が摂取できない場合、症状が回復しない場合、その他必要と認める場合には、直ちに医療機関に搬送してください。

### ? 熱中症を引き起こす条件は?

**【環境】** 気温が高い・湿度が高い・日差しが強い・風が弱い  
**【体】** 激しい労働や運動によって、体内に熱がたまる・暑い環境に体が対応できないとき

### ? どんな場所になりやすい?

高温・多湿・風が弱い・輻射源(熱を発生するもの)の環境下  
\*工事現場・調理場・ビニールハウス・窓を閉め切った車中は特に注意! 室内でも熱中症は発生しています。

### ? どんな人になりやすい?

脱水症状のある人(寝不足や欠食時、前の晩の飲酒など)・高齢者・幼児・肥満の人・過度の着衣・運動不足の人・暑さに慣れていない人・病気になる人・体調の悪い人

# ! 職場における熱中症予防対策のポイント

直射日光等により高温・多湿になる屋外作業場所などでは、熱中症を予防するため次の対策に努めてください。



## 休憩場所の整備

- 冷房を備えた休憩場所・日陰などの涼しい休憩場所の設置
- 氷・冷たいおしぼり・氷のうなどの身体を適宜に冷やすことのできる物品や設備の設置
- 飲料水・塩分などの備付け

## 暑さ指数(WBGT値)の活用

- WBGT値と気温・相対湿度との関係

気温(℃) 乾燥温度	相対湿度(%)																
	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
39	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43
38	28	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42
37	27	28	29	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41
36	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	39	39
35	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	38	38
34	25	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	37
33	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	32	32	33	34	35	35	36
32	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	31	32	33	34	34	35
31	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	30	30	31	32	33	33	34
30	21	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	29	30	31	32	32	33
29	21	21	22	23	24	24	25	26	26	27	28	29	29	30	31	31	32
28	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31
27	19	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30
26	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29
25	18	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28

WBGT値	注意 25℃未満	警戒 25℃~28℃	厳重警戒 28℃~31℃	危険 31℃以上
-------	-------------	---------------	-----------------	-------------

※暑さ指数(WBGT値)とは、①温度、②湿度、③輻射熱の3つを取り入れた指標で、単位は気温と同じ「℃」で示されます。※「WBGT値測定器」について、JIS規格が制定されています。

WBGT値の詳細な情報は下記WEBサイトを参考にしてください。  
環境省 熱中症予防情報サイト <https://www.wbgt.env.go.jp>

熱中症予防管理者は、暑さ指数を確認し巡視等により、次の事項を確認しましょう!

- 暑さ指数の低減対策は実施されているか
- 各労働者が暑さに慣れているか
- 各労働者の体調は問題ないか
- 作業の中止や中断をさせなくてよいか
- 各労働者は水分や塩分をきちんと取っているか

## 作業時間の短縮

- 作業の休止時間・休憩時間の確保、連続作業時間の短縮、身体作業強度が高い作業の回避

## 水分・塩分の摂取

- 作業前の健康確認と水分、塩分の補給



## 通気性の良い服装の着用

- 通気性のいい作業着や、クールベストなどの着用の検討



## マスク着用について

- 気温・湿度が高い中でのマスク着用は放熱を妨げるので要注意。
- 屋外で人と十分な距離(2m以上)を確保できる場合は、適宜マスクを外して涼しいところで休憩をとる。但し、防じんマスク等、労働衛生保護具の着用については、熱中症に注意しながら作業環境に応じて適切に着用する。



## 日常の健康管理

- 健康診断結果などによる作業者の健康状態の把握(糖尿病、高血圧、心疾患などの疾患は、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあります)



## 熱中症についての教育

- 熱中症の症状、熱中症の予防方法、緊急時の救急処置、熱中症の事例についてあらかじめ教育を行う。

# ! 熱中症は こ え か け で防ごう

**こ**  
こまめな水分補給

屋外労働や室内外など、たくさん汗をかくときは水分と塩分を補給しましょう!

**え**  
炎天下を避けよう

炎天下での長時間の作業、海水浴は避けましょう。日傘や帽子で日光を遮りましょう!

**か**  
風通しを良く

室内でも油断は禁物! 適度な風通しや冷房設備で熱を逃す工夫をしましょう!

**け**  
健康管理!

睡眠・栄養はしっかりと! 日頃から適度な運動で暑さに負けない体を作りましょう!